

佐久市佐久つと支援金事業 自己評価報告書

		評価日	平成28年3月31日
団体名	佐久の縁が和(輪)ぽっこ		
事業名	佐久の縁が和(輪)ぽっこ		
対象経費	135,673円	支援金額	66,000円

事業の目的・内容	目的 ①地域に居場所をつくることにより、みんなで支え合う地域力を高める。②気軽に居場所に参加することで、いろいろな縁が生まれ、理解し合い共に成長できる。③声をかけ合うことで引きこもり予防になり、こころの健康の保持・増進をめざす。④学習会、教育文化DVD上映など学ぶ機会を増やし、地域の交流を促進する。⑤本会の活動で得た情報を発信し、市内あちこちに居場所が広がるよう協力をする。
	内容 毎週日曜日の午前中、地域の居場所として「えんがわぽっこ」を開いている。4～11月は午前9時から11時半、12～3月は午前9時半から11時半(GW・盆・年末年始休み)。内容は、参加者の声を聞きながら毎回テーマを決めて行い、上記の目的が達成できるよう努力をしている。

事業の活動実績	毎週1回午前に開く「えんがわぽっこ」は、毎月・山下新聞店発行ミニコミ紙(かわら版、白田と野沢地区全読者に配布)にテーマ内容が掲載されていることから、市民に広がりつつある。それで、参加者も増えてきている。今年1月～3月のテーマは、次の通り。<1月>・えんがわ歌声喫茶で楽しもう・認知症の母が教えてくれたこと～支える側が支えられる時～・抹茶を味わい”茶の湯”を楽しむ <2月>・えんがわ歌声喫茶で楽しもう・瀬戸内寂聴さんの生き方を学ぶ・ネイルとリンパマッサージを体験しよう・体と心のほぐし体操 <3月>・えんがわ歌声喫茶で楽しもう・ママたちが非常事態!を知る・宮城まり子とねむの木学園から学ぶ・藻谷浩介さんの話と交流会。運営方法は「めだかの学校方式」で参加者がある時は先生役、ある時は生徒役となる。地域に在住する専門家も”地域の財産”として参加してもらい、皆が楽しめて地域全体が高めあえるようにしていきたい。2年を終えて一番驚き気を使ったのは、里山資本主義著者の藻谷さんが3/27に来られたことである。年間500回(一日2回が多い)も講演されている超多忙な方がなぜ?「市民が主役の居場所は意外と少なく貴重な所だ」と。宣伝したら大勢来て入れないため、通常と同じ。結果は35人とぽっこに入れる人数に収まり内容もよくて参加者は満足された。
---------	--



藻谷浩介さんの話術で活発な意見交流が続く。いつも楽しみにしている交流会に花が咲く

事業の成果・効果	①「居場所」として地域の人々の理解が広まり、参加者が増えてきている(前年度一回平均10,7人から今年度は13,3人へ)。②心を病む人、連れ合いをなくした人、一人暮らしの人たち、20代～40代もまだ少ないが参加されつつあり「ここは安心してホッとできる所」と参加されている。③高齢者も住み慣れた地域で最期まで暮らすには、「こういう励まし合って楽しく過ごせる所」が必要と話されている。④ここに参加することで淋しさが解消され、いろいろなことが学べ参加者の生きがいの一つとなってきている。⑤いろいろな人と交流が出来て、楽しい場となっている。⑥住民主体の居場所はまだまだ少なく、シニア大学受講生やサポートセンター100人委員会の委員・他地域からの見学者も来られている。
----------	--

事業は申請どおり実施できた	○1 できた 2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 主な理由(3、4と答えた場合のみ)
事業の実施によって、期待した効果をあげることができた	○1 できた 2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった 主な理由(3、4と答えた場合のみ)
実施計画書と実績報告書の活動費の内訳について	○1 ほとんど同じ 2 多少の変更があった 3 大幅に変更している 主な理由(2、3と答えた場合のみ)
その他、評価すべき点等	

※ 自己評価の欄は、番号に○を付けてください。評価は、客観的自己診断です。

今後の事業展開	住民が主体になってすすめる居場所のモデルケース的存在として、他の機関や市民活動団体などから注目をされている。昨年8月県長寿社会開発センター主催の合庁で「縁側づくり」の基調講演を行う。伊澤佐久総合病院長や小林佐久保健福祉所長など市民103人が参加。10月「フレンドシップ」で講演。年が明けて1月、県高齢者生協主催「地域づくり」でパネラー。2月、社会福祉士会で講演。3月、退職看護職者の会で講演。5月には、県シニア大学講義の一部に呼ばれている。こうして地域の中で広がることで、他の地域に居場所がひろがるように支援をしていきたい。
---------	--